

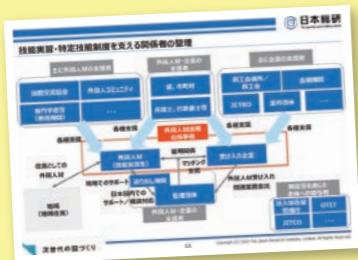
北陸の地域社会と 外国人労働者との より良い共生のあり方を考える

「北陸地域の外国人材受入に係る現状・課題調査」の報告会を実施しました！

2月9日(水) JICA北陸が今年度実施した「北陸地域の外国人材受入に係る現状・課題等に関する調査」の報告会をオンラインで開催し、150名を超える自治体・関係団体・民間企業の関係者にご参加頂きました。北陸地域では少子高齢化、生産労働人口の減少に伴う過疎化や労働力不足が深刻化しています。地域産業を支える外国人労働者を私たち地域社会はどのように位置付け、同人材との共生についてどうあるべきか、その在り方について考えるきっかけとなりました。報告会資料は、JICA北陸のホームページで公開を予定しています。



- 8 働きがいも経済成長も
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを



もっとJICA海外協力隊を知ろう！ 『オンライン座談会・個別相談会』



1月15日(土)にJICA海外協力隊に関する座談会・個別相談会(主催:JICA北陸)を開催しました。オンライン初開催となった本会には、一般・大学生を中心に16名が参加、協力隊経験者5名をゲストに招き、普段聞くことが出来ない隊員活動の本音や参加者のギモンなどをテーマに座談に興じました。

実施後参加者からは「JICA海外協力隊の応募から隊員活動までの流れを知ることができた」「隊員経験談を聞くことでなかなか掴めなかった協力隊のイメージが湧いた」などの感想をいただきました！

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



▲隊員経験者による活動紹介の様子

出発隊員報告

マレーシアサラワク州の*CBRセンターに派遣予定です。少しでもコミュニティーの方達に信頼される活動を行ってみたいと思います。また、他文化、他宗教を自分の肌で感じてみたいと思います。
※Community Based Rehabilitation

2021年度
出発



派遣国
マレーシア

高橋 朗さん

三宅 展子
研修事業

はじめまして！12月20日にJICA関西からJICA北陸に着任しました。北陸に住むのは初めてで、美しい雪景色、おいしい食事など、毎日ワクワクしながら過ごしています。どうぞよろしくお願いします！

山崎 航
ボランティア／開発教育支援事業

こんちは！昨年、国連平和大学（専門は平和教育）を卒業し帰国しました。ボランティア事業や開発教育支援事業を通じて、多文化共生社会への貢献を果たしていきたいと思います。

JICA北陸の新任スタッフの紹介

今井 達也

業務課長



福井市の高校を卒業してから33年目にしてやっと地元の北陸に戻ることができました。その間に北陸地方は外国人が急増し、予想しない形での国際化が進行したと思います。地域に寄り添うJICAとなるべく頑張ります。

富山市立南部中学校
「私の一歩が世界の『笑顔』に」
藤巻 ひかり さん(3年)

金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属中学校
「80億馬力が走り出す」
二見 日向子 さん(2年)

福井市明道中学校
「私たちと地球はつながっている」
中西 未晶 さん(3年)

富山県立高岡南高等学校
「地球の未来との向き合い方」
高野 真未 さん(2年)

(独) 国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校
「わたしの町」
橋本 咲楽 さん(3年)

独立行政法人 国際協力機構 北陸センター(JICA北陸)

〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファーレ(オフィス棟)4階

TEL 076-233-5931 FAX 076-233-5959

JICA北陸ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/hokuriku/>

Find us on
JICA北陸



ここから
アクセスしてね！

たくさんのご応募
お待ちしております！

2022年度の応募は6月11日から9月7日まで！
作品募集テーマは
「世界とつながる私たち～未来のための小さな一步～」

北陸3県のその他の受賞
及びエッセイコンテストに関する情報はこちら

JICA北陸's World News Letter

2022春号/spring

JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2021結果発表！

JICAでは開発途上国の現状や日本との関係について中学生・高校生の理解を深めることを目的に、毎年エッセイコンテストを開催しています。2021年度は「私たちと地球の新しい未来」をテーマに中学生の部23,170点、高校生の部25,215点、総数48,385点ものご応募をいただきました。その中で北陸3県の学校に通う生徒さんや学校の入賞結果、またインタビューの一部を紹介いたします。

北陸3県唯一の全国表彰！国際協力特別賞を受賞！

中学校1年生の時、お母様の勤める会社の視察旅行に行き、カンボジアに1週間滞在した津幡さん。旅行中、地雷除去の現実や生活に必要なインフラが十分整備されていない状況を目にしたもの、そこに暮らす人々の笑顔や前向きな気持ちを感じたことで人々の暮らしをサポートするにはどの様な方法があるか、考え行動していく契機となりました。

作中では、自分たちが出来ることとして、フェアトレード商品の購入を提案していますが、それ以外にも、商品の購入を通じて、販売元が支援する団体への寄付につながる例を挙げ、購入する際に「選ぶ」ことが大切と話してくれました。

同校は2年生の修学旅行に向けて国際理解教育に取り組むそうで、これから津幡さんの学びや益々のご活躍が楽しみです！



津幡さんの作品(全文)
はこちらから

北陸学院高等学校
「当たり前」の格差
津幡 高裕 さん(1年)

*特別学校賞は、たくさん
の作品を長年続けて応募
していただいている学校
に贈られる賞です。

「特別学校賞」初受賞！ かほく市立高松中学校

同校3年生は、総合的な学習の時間を軸に教科横断的に国際分野の学習を行っています。生徒の興味や得意分野から調べ学習をスタートすることで、世界の課題が身近なものであることを感じ、社会科歴史分野を通じてその課題の根本を理解しています。その中でエッセイは、個人の考え方を深め活動のまとめとして活用されています。個人の学びの後、文化祭に向けてステージ発表の作品や掲示物を作成し、学友と協同することで視点や理解を広げます。1つの教科・1人の先生が行うのではなく、様々な取組みを繋ぎ国際理解教育を学校として行っています。

北陸センター所長賞受賞者



オンライン全校集会で校長先生より代表生徒さんへ賞状と盾を手渡して頂きました！

※学年は2021年度当時